



吉川会長挨拶

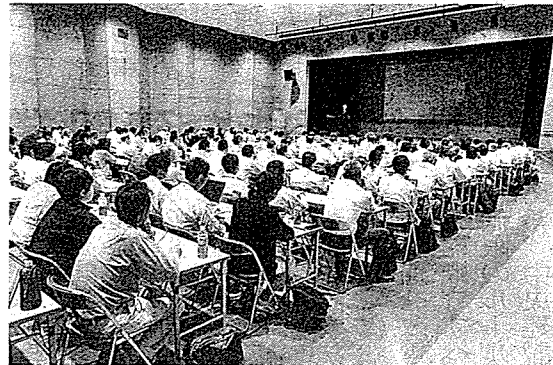
県測量設計コンサルタンツ協会

吉川会長「技術力底上げ第一に」

技術講習会に180人

(一社)長崎県測量設計コンサルタンツ協会(吉川國夫会長)は5日、大村市中央公民館で第40回定期技術講習会を開き、会員約180名が受講した。技術者らは、橋梁点検や最新3D機器による点群取得および3Dモデル作成の技術力向上に努めるとともに、地域インフラ郡再生戦略マネジメントについて知見を深めた。

吉川会長は開会に際し、「県においてはICT・DX化を推進しており、当協会においてももつと輪をかけて強力に押し進めていく。安部前会長の取り組みを継承し、我々一人一人の技術力の底上げを第一に考え温故知新の精神で尽力していく」と挨拶した。講習会力リキウムは午前9時の部▽橋梁点検について(講師・榎城下伸生氏)▽最新3D機器による点群取得(講師・榎水洋行・中島洋司氏)▽BIM/CIMに向けた点群を利用したモデル作成(講師・榎アルモニコス・宮崎祐樹氏)。午後の部を、▽地山補強土の概



◀新たな知識・技術を求める会員で満席となった会場

要(講師・PANWALL工法協会・村瀬安彦氏)▽インフラ測量点検先端技術等の提案(講師・西日本ロボット・ドローンセンター・伊東修氏)▽地域インフラ群再生戦略マネジメント(インフラメンテナンス国民会議・森尾宣紀氏)とし、地域の守り手育成を中心とした内容となった。

このうち、インフラメンテナンス国民会議の森尾氏は、2023年に長崎市職員を定年退職し、再任用中。これまで長崎県橋梁長寿命化修繕計画や、長崎大学・NERCと連携した技術研修および共同研究など、様々な職務を遂行してきた。その中で、「橋梁の点検・修繕費が高価で同計画が進まないこと、職員が免れられない異動による技術力低下・継

承不足などを痛感した」と語り、「市単独での取り組みは非効率となる。地域インフラ群再生戦略マネジメントは、県内市町が総力戦で取り組むべき」と訴えた。今後、NERCと連携しつつ県下全市町の職員を対象とした橋梁点検、修繕、コスト削減の在り方を検討する組織立ち上げに尽力する考えを示した。

会員らは、地域が抱えるインフラ老朽化による維持管理や、災害発生における迅速な復旧事業に対処すべく真剣な表情で傾聴。課題解決に向け技術力の研さんに励んだ。